

教員の働き方改革に係わって勤務時間の客観的な把握

教職員自ら、自分の勤務時間を客観的に把握するために、タイムカードを導入し、管理を行う。

ここ4年ほどの教職員の勤務時間調査の結果を見れば、先生方の時間外勤務は減少傾向にあり、辰野町も同様である。しかしまだまだ個人差もあり、厳しい状況には変わりはない。

そこで「国の働き方改革」と連動させて、文部科学省では「学校における働き方改革」の実現に向けた環境整備、取り組む具体策などを掲げ、長野県教育委員会でも、「学校における働き方改革推進のための基本方針」等を出している。

一方で、今日の学校業務が減少しない中で、「時間外勤務縮減を」、と試みても、なかなか厳しいものがある。本来ならば、仕事量が変わらなければ、教職員の数を増やさなければ、根本的な解決にはならない。

辰野町教育委員会では、根本的な解決には遠いが、教職員の勤務時間について、タイムカードによる管理を来年度（4月より）から実施する。

すでに、先生方が自分の勤務時間を客観的に把握する手段として、辰野西小学校には、他校に先駆けて昨年末にタイムカードを導入し、管理していただいている。

朝、出勤時にカードを入れ、退校時に再び、このデータが教頭先生のパソコンに送られ集計されるシステムである。

導入前後で、先生方の感想は、「自分で前より意識している」、カードを入れるのも楽しいようで「今は昨日より速く帰れる」、逆に「今日は遅いな」という会話も出ていると聞く。教頭先生も、「以前より超過勤務が少なくなっているのではないか」、「客観的に自分の勤務時間がわかるのがよい」と語っている。

年度内には、他の総ての小・中学校に導入。